

県内畑土壤 40 年の変化～有機物施用と土壤養分の実態～

【概要】

農業研究センターでは、昭和 54 年度から 5 年おきに県内のほぼ同じ畑ほ場で「土壤調査」を行っています。今回は、最新 9 巡目(令和元～5 年)のデータを加えて 40 年間の変化をとりまとめました。

- 1 9 巡目調査の結果、約 6 割の農家が堆肥を施用しています(表)。野菜・普通畑作物での有機物施用量は、ピーク時と比較して少なくなっています(図 1)。
- 2 畑土壤のリン酸は、どの作目でも 3 割前後の地点で過剰となっています。デントコーンでは、約半数の地点でリン酸不足となっています(図 2)。
- 3 畑土壤のカリは、露地野菜と普通畑作物で約 3 割が過剰であるのに対し、不足地点も 2 割を超えています。デントコーンでは約半数でカリ過剰となっています(図 2)。
- 4 この調査結果は、県内全体の傾向を示すものです。実際に土壤化学性を評価する際は、各ほ場の土壤診断のデータに基づいて行ってください。

【試験データ等】

表 有機物施用状況

調査巡	調査期間	調査戸数(戸)	農家割合(%) ^{注1)}		
			堆肥	その他 ^{注2)}	無施用
1 巡目	S54～S58	404	71.4	18.8	18.8
2 巡目	S59～S63	398	68.8	7.5	26.8
3 巡目	H1～H5	387	67.4	7.4	27.7
4 巡目	H6～H10	386	59.9	5.4	35.9
5 巡目	H11～H15	77	77.9	1.3	20.8
6 巡目	H16～H20	86	79.1	0	20.9
7 巡目	H21～H25	67	68.7	0	31.3
8 巡目	H26～H30	64	75.0	0	25.0
9 巡目	R1～R5	66	62.1	0	37.9

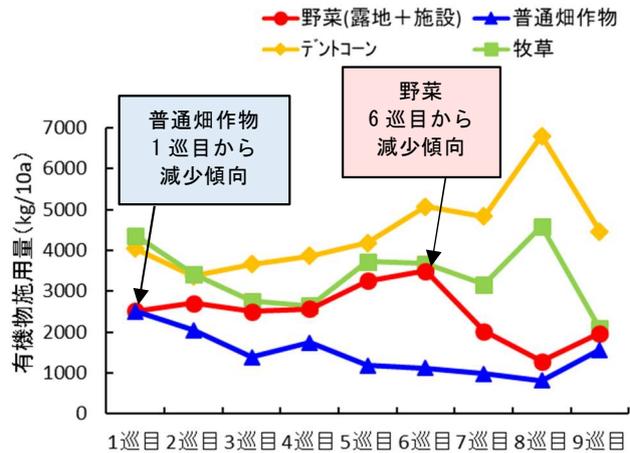


図 1 畑地での有機物施用量の変化

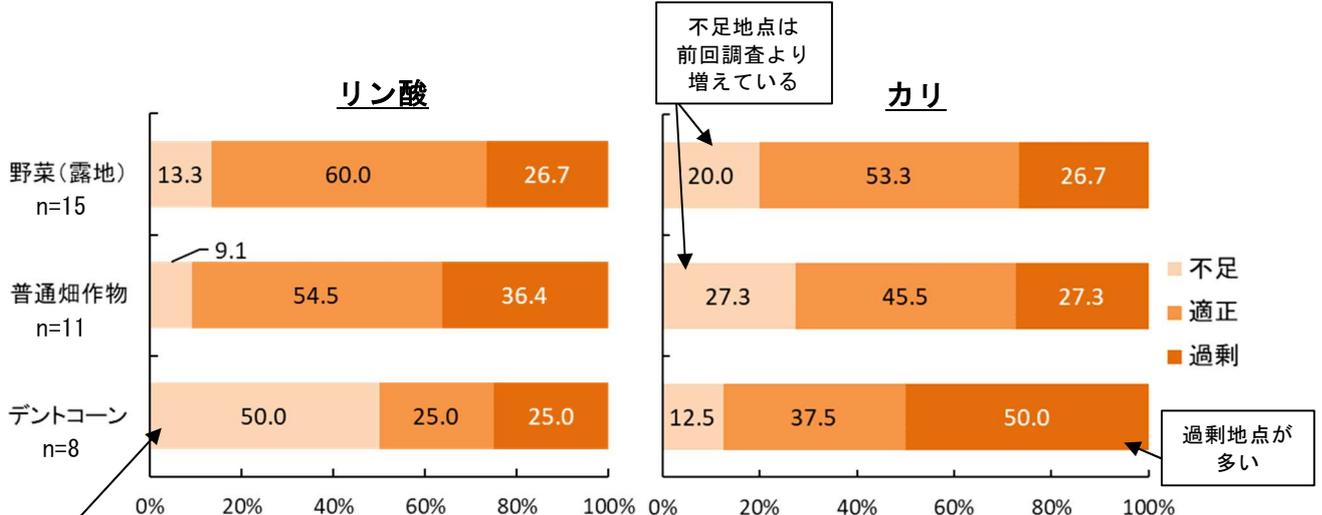


図 2 土壤の養分含量別のほ場割合(9 巡目)

【令和 5 年度成果】 県内畑土壤 40 年間の有機物施用と化学性の変化 (R5-指-14)